谷戸の風 ㊴

天皇のビデオメッセージ

山内 静夫

木版画　藤本宿

去る八月八日午後三時、天皇陛下のお言葉がビデオメッセージという形で放送された。天皇が直接全国民に向けて、心に抱いておられるお気持を語られることは初めてのことのように思う。

勿論これまでも、阪神淡路大震災や東日本大震災などの大きな災害に際してもその都度お見舞のお言葉を頂いているが、今回のお言葉は、全く別の、陛下がご自身の率直なお心持ちを述べられたという点で誠に画期的なご発言だった。御自ら皇室のあるべき姿についてお考えを述べられるということなど、私ども世代にとっては思い及ぶべくもないことだった。

戦争、しかも敗戦という日本の国家としての大変革を経て、皇室がいかにあるべきか、国の政治が第一に考えねばならぬことを、恐れ多くも、天皇御自身が真先に問題提起されたことは、何という勇気あるお言葉か、私はその時、身動き出来ぬ程の感銘を受けた。

生前退位とかの問題は別にして、人がどう生きるべきか、人間の出所進退というものがどうあるべきなのか、国民ひとり一人が考えねばならぬ問題を、恐れ多くも〝かみごいちにん〟が自ら示されたのだ。公務御多端は、申し上げるまでもないこと、陛下のお言葉にある、「国民に寄り添う」というお気持にそのすべてが現れている。

私の父など、生涯天皇を〝天子様〟とお呼びしていた。時代は変って行く。広い公民館の板の間に、じかに膝をおつきになって、被災者の老人と言葉を交わされる天皇、皇后がおられる国を、私たちは大切にしなければならない。

貝殻や陶器のかけらなど
由比ガ浜で親子が宝探し

今年ブルーフラッグ（国際環境認証）を取得した由比ガ浜海岸に隣接する坂ノ下海岸で、8月3日、親子で楽しむビーチコーミングが行われ、6組18人の家族が参加した＝写真。湘南ビジョン研究所〈白石学理事長・会員約60人〉がブルーフラッグの取得条件の一つに挙げられている環境教育の一環で主催。

講師の山田海人さんから「こんな〝お宝〟が拾えるので拾ったら尋ねてほしい」と説明を受けたあと、参加者たちは引き潮の波打ち際を歩き、宝探しをした。

1時間ほどかけて集められた、貝やカニの甲羅や足、岩笛と見られる穴のあいた石、骨、陶器のかけらなどが砂浜に並べられ、元葉山しおさい博物館館長の池田等さんらが解説した。

横浜から小学生3人の子を連れて参加した柿澤麗さんは「今まで何気なく見ながら通り過ぎていたものを手に取って何かと考えるのは面白い」と話していた。

鎌倉の海岸は湾が深いので、海底に堆積している縄文時代の遺物なども拾えるという。

文学つれづれ ⑭③

『舞姫』と『ファウスト』（13）

赤羽根 龍夫

鴎外はなぜことさら『舞姫』の主人公の豊太郎をファウストとは正反対の、自らの意志で行動できない「弱い人間」、責任を親友相沢に転嫁してしまう卑怯な人間として描いたのであろうか。

ドイツ留学中の森鴎外はもちろん、卑怯でも「弱き心」の持ち主でもなかった。むしろ自らの力を確信するファウスト的自我の持ち主で、エリーゼとのベルリンでの恋愛も『舞姫』とはまったく違った青春を謳歌するようなものだったろう。もちろん近代的自我の持ち主として二人は愛を育んだのであった。

だからこそエリーゼは日本での愛の続行を信じて日本まで鴎外を追って来たし、鴎外にもまた、近代日本は二人の愛を受け入れてくれるだろうという信頼があった。

しかし帰国途上のパリへの列車の中で、エリーゼを連れて帰ることを上官石黒に告げ、石黒の強い反対にあった時、鴎外はそれが石黒一人ではなく、これから帰ろうとする日本全体の答えなのだということに気づいたのである。その時鴎外はドイツで築いてきた近代人としてのアイデンティティが音を立てて崩れ、自分をどうすればいいか分からないまま日本に帰ってきた。

『舞姫』出版当時の鴎外＝「新潮日本文学アルバム」より

私には相沢が豊太郎を諫めて言った「この一段のことはもと生まれながらなる弱き心より出でしなれば」という物語中の言葉は、鴎外がエリーゼ問題について苦慮し、周りの者が彼女を何とかドイツに返そうと躍起になっていた時、周囲の誰か、もしかして親友の賀古鶴所から言われた言葉だったと思われてならない。エリーゼのことはお前の「弱い心」が引き起こしたと言われて、鴎外は苦虫をかみつぶしたような気持で自分の「弱い心」と対峙したのである。

まわりの者は俺の心を「弱い心」と言う。しかしその弱さとはいったい何だ。エリーゼとの愛を貫いて近代日本建設の要員としての資格を奪われることも、近代的自我の自覚によって愛したエリーゼを平気で裏切ることも、自由な近代人として真に決断したことにはならない。封建的色彩の色濃く残っている「普請中」（鴎外の短編）の日本で、不決断以外の決断がありうるのか。「弱い心」こそ近代日本の自覚的な心ではないか。開き直ったような気持ちで自らの「弱い心」を見つめる「戦闘的」心の中に、もちろんエリーゼとの愛を貫く決断はもとより、自身できっぱりとエリーゼと別れる決断もできなかった「弱い心」への後悔の念も強くあったのである。

『舞姫』が出版された当時、恋愛を捨てて功名に走るような「意志弱行き」人物をなぜ主人公にしたのかという評論家・石橋忍月の批判に対して、鴎外はシェイクスピアとゲーテの名を挙げて反論している。

「あるべきかあらざるべきか」と悩んだハムレットだって、恋愛のために自殺したウェルテルだって太田豊太郎のように弱い心の持ち主だという時、確かに鴎外は的を外していない。近代になって人間の歴史の中ではじめて、文学が神や英雄や権力者に対してでなく、自分自身の心に関心を向けた時、ハムレットやウェルテルのように人間の心の弱さに目が向けられるようになったのである。

したがって近代文学は、古代や中世の文学のように英雄ではなく、普通の人間が主人公となった。その意味で後に鴎外が『舞姫』にふれて、『舞姫』は「小なる人物の小なる生涯の小さな旅路の一里塚なるべし」と書いた時、鴎外は『舞姫』こそ近代文学であるとの自負があったに違いない。

（神奈川歯科大名誉教授）

鎌倉朝日 歌壇

香山 静子 選

江の島をつつみて海に散る花火ドドンとどろき夏はをはりぬ　辻堂 柳蒼

臨場感のある歌で特に下句は説得力がある。

おすそわけと友より届きし玉ねぎを夫はスライスす酒のつまみに　由比ガ浜 多賀 聖子

気負わずに日常から素材を掬った自然体の歌。

渡りゆく雁に別れの手を振りぬ岬の果ての空に消ゆるまで　片瀬海岸 川島 俊子

適度の抒情性があって気持のいい作品。

さらさらと脱いだ靴よりこぼれたり貝を探した名残の砂が　逗子市 木村 勲

糠床をヨーグルトで蓋して長旅の添乗員の裏技は丸　扇ガ谷 鈴木 久子

近々と朝な夕なに鳴きゐたる鶯過ぎて盛夏となりぬ　七里ガ浜 嶋 尚久

大いなる森あるゆゑの手ひか小鳥囀るわが庭の木に　寺分 市田 惠子

群れ咲ける未央柳の蕊長く降り来る雨に花びら落とす　藤沢市 青木寿美子

掲載され「命のビザ」の記事を読む光陰矢の如し戦後七十年は　笹目町 出蔵かおる

薄命と言はれながらもそれなりに見せ場を作る月下美人は　金沢区 岩澤 正春

彼の花の名の知らぬまま散りゆけばふと思ひ出づ初恋の頃　梶原 中澤 二郎

鎌倉朝日 俳壇

志摩 知子 選

扇子の風止めて話は核心へ　玉縄 篠田 祥子

何を話しているか不明だが、臨場感がおもしろい。

遠まわりして浜木綿の咲く道へ　片瀬海岸 川島 俊子

浜木綿をみるために遠まわりする。エレガントな句。

大夕立雷神よりも怖い風　辻堂 柳蒼

今年のすごい雨。雷よりももっと怖い風と実感。

砂浜で地球を掘るや裸の子　藤沢市 槇野あさ子

砂浜で子供が地球を掘るという発想のたのしさ。

平和とは透明なこと花氷　片瀬海岸 伊東 清

花の埋めこまれた氷柱。平和の喜びを噛みしめる。

揚羽蝶路面電車の陽に陰に　腰越 松原 薫

揚羽蝶と路面電車の取り合せがおもしろい。

万緑や空を持ち上げプラタナス　本鵠沼 宗 とし尾

お施餓鬼や読経に和する蟬の声　七里ガ浜東 嶋 尚久

熱帯夜どこかで列車軋む音　鵠沼桜が岡 一色千穂子

代掻きの棚田に夕陽散らばれり　腰越 近藤 源司

百日紅白の花房ゆれてをり　腰越 大川 昭子

師の君の御姿廻る走馬燈　材木座 貝山 正子

山百合のきつい香りや城の道　笛田 上田 満喜

病棟の長き廊下の残暑かな　大船 添田 洋子

さうだねと相槌の欲し夕端居　植木 風見 玲子

菜園や蔓絡まれてなすび満つ　葉山町 近藤 純

トランプのひとり占ひ夜の秋　金沢区 岩澤 正春

終の棲み家を考える ㉙ 不動産の売却

先日古い知り合いから不動産の事で相談したいと連絡があり、久しぶりにお会いしました。いろいろな問題を抱えている地主の方で、売却を前提に地元の不動産業者と年月をかけて進めていたようですが、上手くいかず先方に断りを入れて私の所に来たようです。

それなりの大きさの土地ですので関係する法律や条例も多く、簡単に処理できる問題ではない事は直ぐ分かりました。話を聞いていくうち、疑問が出てきました。業者が正規の手続きをせずに販売しようとしていた事。土地の名義を業者の名義にしようとした事。土地の条件の良い所だけを売却させようとした事など。冷静に考えればおかしなことばかりで、要するに囲い込んで身動き取れないようにしようとしたようです。公開せずに買い手を見つければ手数料も倍になるし、建物の建設工事も特命で契約すれば利益も大きくなるし、業者にとっては良い事ずくめです。

不動産の売却を進める時注意しなければいけない事は、法律を遵守する事、広く公開する事、上手い話しに飛びつかない事。一番探し難いですが、信頼できる業者に依頼する事です。大きな金額が動きますので、甘言で寄り付く人は排除しなければなりません。

■日向建設　鎌倉市大船1-15-3
☎0467・47・5454　http://www.hyuuga.co.jp

あなたの紙面をプロが応援します
優 新聞印刷会社
超 印刷業
を目指す!
当社サンケイ総合印刷株式会社は産経新聞、フジテレビ、ニッポン放送を中核とするフジサンケイグループの印刷部門の担い手として、変革を続ける幅広いニーズ、新しい感性に対応、最先端技術の導入をはかっております。
フジサンケイグループ
FUJISANKEI COMMUNICATIONS GROUP
サンケイ総合印刷株式会社
本社　埼玉県戸田市喜沢南1-5-43　☎048-441-0111
大手町営業部　東京都千代田区大手町1-7-2　☎03-3242-3570